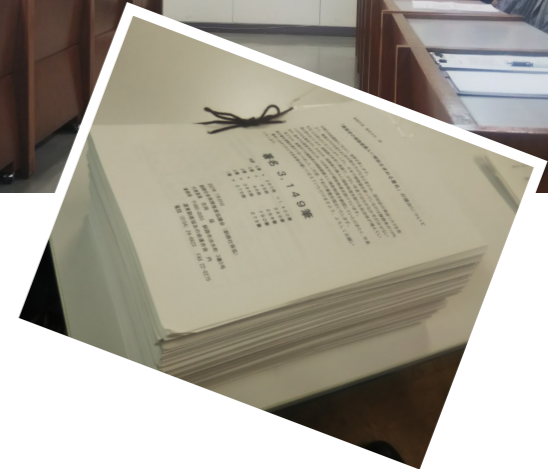


3,149 筆の署名を添え補聴器購入補助を要請



7月20日、釧路市社会保障推進協議会は、3149筆の署名を添えて市に「加齢性難聴の補聴器購入補助」を行うよう要請しました。社保協参加の新婦人、勤医協、勤医協友の会、年金者組合などの役員と共産党の4人の市議が参加しました。市の熊谷留美子福祉部長が署名簿を受け取りました。

◆◆参加者の発言◆◆
「女性は低年金でもとも補聴器は買えない。北見市でも補助が始まったので、ぜひ釧路市もやってほしい。」(新日本婦人の会)
「難聴は認知症につながるリスクが高

い。認知症対策としても補聴器の普及をはかってほしい。補聴器はヨーロッパでは医療行為の一つとして保険適用されている。国が補助しないのであれば、ぜひ市が始めてほしい。」(社保協事務局)
「重度の難聴でないと補助がないので、必要な人の14%しか補聴器がない。眼内レンズが医療保険の対象となったときのように、自治体が先駆けて取り組んでほしい。」(勤医協)
「安価な集音器を買った人がいるが、雑音が多くて使わなくなる人も多い。やはり補聴器だ。」(年金者組合)

◆◆熊谷福祉部長の回答◆◆
「議会合併と変わらない(国が対処すべき)もので、国の動きを注視し、市が独自に助成することは考えていない(が、機会を捉えて市に何ができるか考えた。様々な意見を伺い、署名簿もいただいた。人生はすでに百歳時代になっている。全国市長会などの動きもあるし、福祉ではなく医療として取り扱ってほしいとの意見は受け止めた。」

シルバーカーを試乗体験



阿寒ふるさとまつりでシルバーカー(シニアカー、シニアカート)の試乗会をやっています。シルバーカーは

条件をクリアすれば介護保険を使って1割負担でレンタルできます。アクセルを離すとすぐにブレーキがかかり、最高速度も6キロまで、歩く人と同じ低速ギアも、バックもできて安心です。



このQRコードをスマートフォンで読み取ると、試乗会の詳細がご覧いただけます。